



日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報

第42期第1号
2022年6月10日
発行者:小泉基

改革へとむかう聖公会北海道教区の主教按手式

小泉 基

若い頃の出会いは、その後の人生に大きな影響を及ぼします。わたしも大学入学後に出会った教派を超えた青年会活動の先輩方から、たくさんの刺激をいただきました。そうした出会いがなければ、牧師にもなっていなかったに違いありません。わたしが最も影響を受けた方のひとは聖公会の先輩で、残念ながら先年交通事故で召天なされたのですが、わたしはその方の後任として日本キリスト教協議会でも働かせていただいたのです。当時の日本の聖公会は、まだ女性の司祭按手が認められておらず、その問題は聖公会の青年活動の中でも重要なテーマのひとつとされていました。ですから1999年、ようやく女性の司祭按手が認められ、聖公会の青年仲間たちの中から女性司祭が誕生したときには、エキュメニカルな活動の仲間の間でも、大きな喜びがわかちあわれたのです。その時に相次いで誕生した聖公会初の女性司祭のうちのひとりが、青年会活動の先輩であり、この度主教に按手されて聖公会北海道教区に着任された笹森田鶴師だったのです。もちろん日本聖公会初の女性主教です。5/17付の北海道新聞の記事をお読みになられた方もおられることと思います。

さて4月23日のこと、その聖公会北海道教区から正式な招待状をいただき、笹森田鶴師の主教按手式に列席させていただきました。コロナ下にあって限られた人数しか出席できない按手式でしたが、日本聖公会と日本福音ルーテル教会がこれまで築いてきた深い協力関係があつてこそのご招待でした。そこで感じたことのひとは、聖公会が大切にしてくられた執事・司祭・主教という教職の三職制には、それなりの意義があるのだということ。そして日本聖公会も、組織改革の岐路に立っておられるのだということでした。笹森新主教は就任挨拶の中で、北海道教区も着実にその改革に取り組んでいく。そしてそのためにこそ、教区の方々の喜びや悩みについて、じっくりと耳を傾けたいのだと決意を述べられました(聖公会北海道教区のウェブサイトから視聴可能)。わたしたちルーテル教会の北海道特別教区も、宣教体勢のあり方を再構築するという問題に直面しています。声を出しあい、ともに聞きあいながら、みなさんとともに新しいあり方を模索していきたいと思っています。



聖公会 Web サイトから(右下の足が小泉)



各教会の近況報告

【函館教会】

小泉 基

函館教会は、イースターの礼拝で教会補修事業(屋根貼替・礼拝堂クロス貼替)完了の感謝の祈りを捧げました。これで数年来悩まされてきた雨もり問題が抜本的に解決され、煤けて下地の形状がくっくりと浮かび上がっていた礼拝堂の壁面と天井とが、白く美しくなりました。この機会に、礼拝堂の正面の壁面は黄土色の壁紙に変更されました。また礼拝堂内の音響等の配線隠匿と照明器具の一部LED化も完了し、全体としてすっきり美しい礼拝堂に生まれかわりました。今回の事業には、函館教会外からも献金を寄せて下さる方があり、祈られて工事を完了できたことに心から感謝の思いでした。なお、屋根看板については技術的にクリアせねばならない問題もあり、施工方法等についての検討途上です。

また、新しい取り組みとして、4月11日から子ども礼拝をスタートしました。数年来途絶えていた教会学校を再開できたことは喜びですが、まだ子どもさんはひとりだけ。子ども礼拝が、早く子ども“たち”の礼拝になるようにと祈りをあわせています。



毎週日曜9:30から子ども礼拝です

【恵み野教会】

太田 満里子

8回にわたり休止していた礼拝は3月27日から再開する事が出来ました。1月30日から延期されていた教会総会も4月10日に無事終え、新役員を加え、2022年度の教会活動がスタートしました。4月17日の復活祭には、主の復活の喜びと、祈り続けた方の転入が実現し二重の喜びに久しぶりの茶話会となりました。5月15日には、礼拝後に全員で教会の窓ガラス拭きに汗を流し、5月22日には、今年度一回目の信徒会で礼拝式文の学びと今後について話し合いがもたれました。雪害で倒壊したぶどう棚の修復も奉仕の心でご協力頂き完成する事が出来ました。残りは、折れた松の枝の処理です。これも全員で行う予定です。6月5日のペンテコステには、花を持ち寄り礼拝堂を花でいっぱいにと計画しています。ガーデニングで知られた恵庭らしいと思いませんか？



雪害で倒壊したぶどう棚の修復も奉仕の心でご協力頂き完成する事が出来ました。残りは、折れた松の枝の処理です。これも全員で行う予定です。6月5日のペンテコステには、花を持ち寄り礼拝堂を花でいっぱいにと計画しています。ガーデニングで知られた恵庭らしいと思いませんか？

【帯広教会】

岡田 薫

新学期が始まって以降、Covid-19の新規感染者数の高止まり傾向が続いています。昨年の中ごろは戦々恐々としながらやむなく礼拝休止にしておりましたが、桁違いの状況を受けて現在は各人の判断で不安や不調を感じたら躊躇なくお休みいただくようにお声がけしつつ、主日礼拝、夕礼拝(月に二度)、浦幌集会、釧路家庭集会は予定通り行うようにしています。いずれも少人数であるからこその強みかもしれないかもしれません。このような状況ではありますが、復活祭はそれぞれの場所において恵みと祝福のうちに祝うことができました。6月には久しぶりに神学校の講壇奉仕で石居基夫学長による説教と講演が行われます。皆さん久しぶりのゲストの来訪を心待ちにしています。また、有志によって礼拝堂内外のお掃除や整備がコツコツ行われています。





【札幌教会】 日笠山 吉之

例年がない大雪のためどこもかしこも雪壁ですっぱり囲まれていた札幌の街でしたが、春の訪れは意外にも早く、4月に入るとすっかり雪がなくなりました。春の太陽が放つエネルギーに脱帽です。天地万物を創造された神に感謝！

今年の復活祭は、4月16日（札幌北礼拝堂）と17日（札幌礼拝堂と新札幌礼拝堂）に祝われました。コロナ禍のためまだ愛餐会をすることは出来ませんでしたがお隣に六花亭が出来た札幌北礼拝堂では日頃の感謝を込めてケーキを取り寄せ、ささやかな茶話会を楽しみました。（この冬は大雪で教会の駐車場がしばしば埋まってしまったので、その度に六花亭さんの駐車場をお借りしたのです）また札幌礼拝堂では、この日、一人の青年が堅信しました（私の息子ですが）。新札幌礼拝堂にもたくさんの方が来られ、イースターは3礼拝堂合わせてちょうど100人礼拝（含オンライン参加者）となりました。



礼拝もイースターから通常式文を用い、ルーテル教会らしい歌う礼拝が戻ってきました。また教区の支援で購入した『教会讃美歌増補』からも、4月から新曲に挑戦。まず選ばせて頂いたのは53番の「平和の祈り」です。ウクライナの困難な状況を思うとき、どうしてもこの曲を真っ先に皆さんと一緒に歌いたい！と思ったからです。おそらく『増補』の中で最も長い賛美歌ですが、皆さん文句を言わずによくぞ歌ってくださいました。

礼拝以外の学びや集会も、イースター以降、続々と再開されています。「聖書の学び」「聖書を読む会」「キリスト者の自由の学び」「平和の学び」などなど。教会にとって、主日の礼拝が何よりも大切なことは言うまでもありませんが、少人数での学びや交わりもまたかけがえのないものです。教会の宣教活動が少しずつ戻ってきて、嬉しい限りです。

次の教区報が発行される頃には、インターン生（三浦慎里子神学生）も研修をスタートさせている頃でしょうか。教区の諸教会でも温かく迎えていただければ幸いです。



No Youth No Church

中島 和喜



今年の4月から月に一回、全国の青年たちが「NYNC (No Youth No Church) ステーション」と題してラジオ形式で1時間前後の番組を配信開始しました。YoutubeもしくはPodcast (音声配信アプリ) で聞くことができます。内容としては毎回ゲストをお呼びして、ゲストの方の証しや質問コーナー、各回の特別な企画など様々なものとなっており、18~35歳までの青年に向けたものとなっていますが、オンライン配信であり誰でも聞くことができるので多くの人たちに聞いてほしいという青年側の思いもあるそうです。「NYNC ステーション」と調べれば出てきますので気になる方はぜひ検索して聞いてみてください。ただし、一つ注意してほしいことがあります。実は第一回目となった4月の配信のゲストは最年少牧師ということで私が呼ばれまして、普段はおすまし顔で牧会をしていますが、自分と年齢の近い青年たちということで砕けた口調や雰囲気となり、つついおふざけが多くなっています。5年間かけて積み上げた私の牧師としてのイメージが崩れかねません。お聞きになる方は覚悟してお聞きください。とまあ冗談はこの辺にしておきましょう。しっかり牧師として節度はある程度守りながら出演しましたのでご安心ください。

実際に出演させていただいた感想は、青年たちが一生懸命に企画し活動しているという熱意を感じたこと、そして何よりも楽しんで参加している青年たちの様子を見れたことが最も嬉しいことでした。ご存じのように、教会の若者の数は年々減少しています。かくいう私も、幼少の頃から教会に通っていましたが、青年期を共に同じ教会で過ごした人ほとんどいません。いたとしても実の兄ぐらいでしょうか。そんな状況でしたから、教会からも遠のいていた時期も多かったです。神様のことも、聖書の言葉も好きでした。教会でも暖かく迎え入れられていました。それでも、教会は私にとって行きたくなるような場所ではありませんでした。唯一行きたくなるのは毎年春に行われるティーンズキャンプ、青年になってからは東教区の青年会ぐらいでした。理由は、そこには同世代がたくさんいたからです。

今も各教会では同じような悩みを抱える青年がいると思います。けれど、そういった悩みを持つ青年でも、自分たちのコミュニティを作り皆で信仰について話し合い楽しんで神様と共に過ごすことができる。そういった場がオンラインを通してだからこそ実現できたのだと思います。楽しんで信仰生活を送ることができる。そのような場が見られたことは、私にとっては幸せなことでした。

以前とは活動の場や内容も変化してきている青年の活動ではありますが、それぞれの時代・場にあって主が働かれることを覚えて、これからも青年の活動を祈り・支えていただければと願います。

教勢動向

函館教会	・受洗	村屋賢一 (5月8日)
札幌教会	・堅信	日笠山託人 (4月17日)
恵み野教会	・転入	森英子 (4月17日)

